

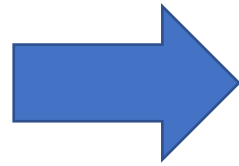
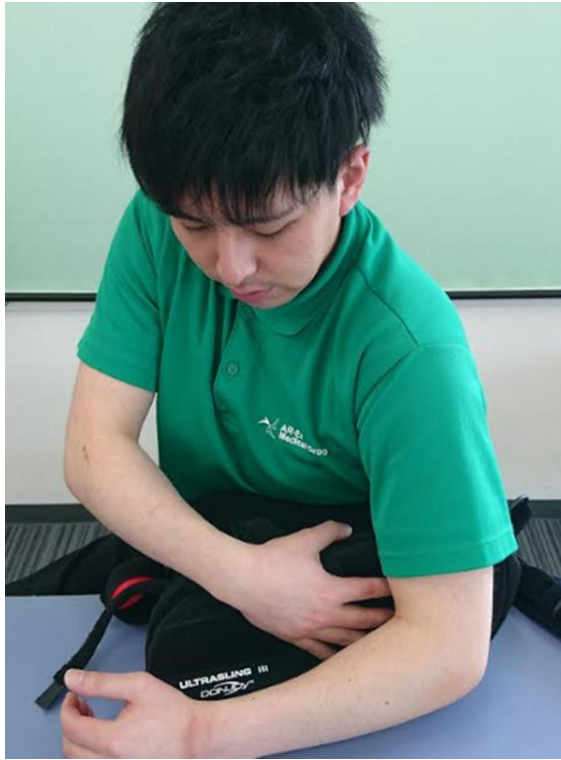
鏡視下腱板修復術後 ウルTRASリング装着方法

①肩を脱力できる場所に置く



術側の肩に力が入らない高さに肘を置きます。
装具を装着するときは手が届く近い場所に装具を置きます。

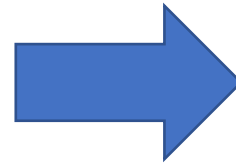
②反対の手で装具を肩の近くに寄せる



手術をした肩に力が入らないように反対側の手を使ってお腹に当てる装具を近づけます。

装着するときはなるべく装具は手が届く場所に配置しましょう。

③反対の手を使って装具に肘を入れる

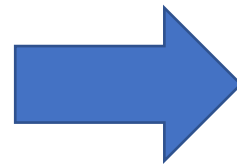


ストラップは腕と
手首の部分にあります

反対の手で肘を把持して術側に力が入らないようにゆっくりと肘を装具に移動させます。

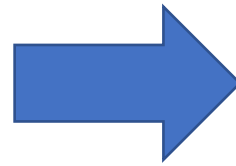
肘から腕までを装具に入れたら付属のストラップをつけましょう。

④手を後ろに回してお腹のストラップをつける



肘と腕に装具を付けたらお腹のストラップから装着します。
手を後ろから回すので術側に力が入らないように注意しましょう。

⑤腕についているストラップをつける



最後に残ったストラップを首の後ろから回してつけましょう。
お辞儀をして首を下げるとつけやすいです。

⑥装着完成



以上で装具の装着が完成です。
ストラップの長さや肘、肩の位置によって
装具をつけていても術部に負担がかかること
があるので、リハビリ担当の理学療法士から
チェックをこまめに受けましょう